

# 猛暑に打ちかつ!

良品を作る品種選定と栽培技術



ナス  
草勢維持や  
青枯病対策には  
台木の検討を!



タキイ 研究農場  
田中 可奈子

## 品種選定

夏期のナス栽培でよく問題とされるのは高温乾燥による草勢低下、花の品質低下による着果不良や生理障害果の発生です。暑さに負けない! 夏にイチオシ! の3品種をご紹介します。

## 果肉がやわらかくおいしい「庄屋大長」

比較的暑さに強く草勢が強い大長ナス品種です。夏の栽培でもバテることなく品質のよい果実の収穫ができます。長さ約35cmのツヤのある果実は直売所でも目を引くこと間違いなし! 4~5月の温度の低い時期はホルモン処理で着果させましょう。



↑庄屋大長

## 着果肥大にかかる作業を省力化「PC筑陽」「PC鶴丸」

この2品種の有する「単為結果性」は、開花した花がホルモン処理や交配用ミ



↑PC筑陽



↑PC鶴丸

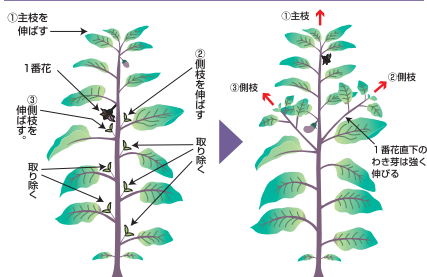
ツバチによる受粉をせずに着果肥大する性質です。低温、高温期を問わず安定的に着果肥大させることができます。トゲなし長ナスタイプ「PC筑陽」は高い秀品率と果皮がやわらかく品質がよい点、長卵形タイプ「PC鶴丸」は高温期の色ぼけ果の発生が少なく、輸送性や日もち性にすぐれる点もおすすめのポイントです。単為結果性品種は着果負担がかかりやすいため、栽培管理やスタミナのある台木用ナス(接ぎ木苗)の活用で草勢維持に努めましょう。

## 栽培ポイント

### 仕立て方・主枝と側枝管理

直売所出荷のような品質重視の場合、仕立て方は3本仕立てがおすすです。第1花の近くから発生する勢いの強い側枝を2本残して主枝とします。そして主枝から伸びてきた側枝は1花目の先端の葉を1枚残して摘芯し、収穫の際は1芽残して切り戻しを行います。

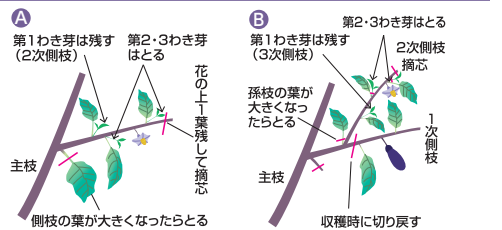
### 仕立て方(3本整枝)



一番花のすぐ下と、その下にある勢いのよい側枝を伸ばす。

伸ばした枝を、それぞれ誘引する。内部に枝が込み合う場合は、枝を整理する。

### 切り戻し剪定



A 1次側枝の1花目の先端に葉を1枚残して摘芯し、収穫の際、A図のように主枝に近い2次側枝を1芽残して切り戻します。  
B 残した2次側枝が伸びたら同じように摘芯、収穫、切り戻しを繰り返します。こうすれば着果負担が少ないので、栽培後半まで草勢が安定し、品質のよいものが収穫できます。

### 灌水・肥培管理

高温期は生育が旺盛となるため、草勢を落とさないよう適期に切り戻しを行います。

水不足は障害果の発生につながります。高温期はこまめな灌水を心掛け、乾燥が続く場合には畝間灌水も併用します。肥培管理は1番果収穫のタイミングで追肥を開始し、その後は肥料が切れないよう定期的に行います。単為結果性品種の追肥は、最初の収穫果が肥大し始めたからスタートし、以降は従来品種よりも1割程度間隔を詰めて行うとよいでしょう。

### 高温下でより注意すべき病害対策



↑(例)高温乾燥期は畝間灌水を併用する。

夏の栽培で懸念されるのが土壌病害です。その中で30℃以上の高温下、多湿土壌で発生しやすい「青枯病」には特に注意が必要です。最も有効な対策は台木用ナスの利用です。青枯病の被害が発生する圃場では「台太郎」がおすすめです。接ぎ木苗を利用する場合でも圃場の土壌消毒や排水性改善などの発病対策を併せて行いましょう。